



令和元年 安曇野市 部局等の重大ニュース・トピックス

目次

総務部・会計課・ 選挙管理委員会事務局	1	保健医療部	6
政策部	2	農林部・農業委員会	7
財政部	3	商工観光部	8
市民生活部	4	都市建設部	9
福祉部	5	上下水道部	10
		教育委員会	11
		議会事務局	12

総務部・会計課・選挙管理委員会・監査委員事務局 重大ニュース・トピックス (令和元年を振り返る・総務部等の出来事)

B:『平和と人権のつどいの開催』

(総務課・人権男女共同参画課)

今年度は、平和のつどい並びに戦没者追悼式に人権のつどいを統合し、「戦没者追悼式並びに平和と人権のつどい」として11月30日に開催しました。基調講演や広島平和記念式典に参加した中学生の体験文集の発表、全国中学生人権作文コンテスト入選作文の発表、合唱や市内小中高등학교の児童・生徒による作品の展示発表を行い、約400人の参加をいただきました。

E:『台風被災地への支援を実施』

(危機管理課)

台風15号で大きな被害をうけた千葉県東金市へブルーシート等の物資提供を行いました。また、台風19号では、県内被災地(長野市・飯山市・千曲市)への支援として、段ボールベッド等の物資支援を行ったほか、人的支援として、避難所運営や廃棄物運搬、り災家屋調査等に延べ144人を派遣しました。

H:『「ホンデリング」デーの開催』

(人権男女共同参画課)

安曇野市とNP0法人長野犯罪被害者支援センターとの共催で、不要本等の寄贈を受け古書業者に売却し、代金を犯罪被害者支援に役立てる取組み「ホンデリング」デーを11月20日に市役所本庁舎で開催しました。自治体が実施主体となる取組みは、県内自治体で初となり、1日で不要本等約2,000冊の寄贈を受けました。

C:『新総合体育館建設工事請負契約を締結』

(契約検査課)

初めての試みとなる契約方式「設計協力付施工一括発注方式」を採用し、技術提案型総合評価落札方式による一般競争入札を実施し、総合評価審査委員会において価格以外にも品質のバランスを重視した審査を行いました。その結果を踏まえ業者選定委員会の決定を経て、9月20日に契約議決され、令和3年10月末竣工に向けて、新総合体育館建設工事が着手されました。

F:『県消防ポンプ操法大会小型の部優勝』

(危機管理課)

令和元年7月28日に飯田市で開催された、第61回長野県消防ポンプ操法大会小型ポンプ操法の部に、第11分団(穂高有明)が出場し、優勝を勝ち取りました。これは、安曇野市発足以来、初の快挙となります。また、各部門の指揮者・番員の最高得点上位者を表彰する個人賞を同分団の1番員が受賞しました。

I:『低金利下の基金運用』(会計課)

日銀のマイナス金利導入後、依然として金融機関の定期預金利率は低下の傾向にあります。11月末時点で、約167億円ある基金は、約19%を国債・地方債等の債券で、約80%を金融機関の定期預金で運用していますが、以前のような運用益の確保は難しい状況となっています。しかし、市民の皆さんの大事な資産ですので、できる限り安全かつ有利な運用に心がけています。

A:『ふるさと納税対象団体となる』(総務課)

令和元年度から、ふるさと納税対象団体としての指定を受けた地方団体に対する寄附金だけが税額控除の対象となりました。安曇野市はこれまでの適正な運用が認められ、総務大臣より、指定期間を令和元年6月1日から令和2年9月30日までとするふるさと納税対象団体の指定を受けました。

この指定を弾みとして、今後も、魅力ある地場産品を全国にPRし、自主財源の確保と交流人口の拡大に取組みます。

D:『会計年度任用職員制度導入に向けて』

(職員課)

地方公務員法及び地方自治法の一部改正により、令和2年4月から会計年度任用職員制度が導入されることから、給料等の勤務条件について近隣市との調整を経て、条例及び規則の整備を行いました。

新年度に向けて、1月から会計年度任用職員の募集を開始します。

G:『パパの子育てセミナーの開催』

(人権男女共同参画課)

安曇野市と長野県男女共同参画センターとの共催で、男女共同参画週間に合わせて「パパの子育てセミナー」を6月22日に豊科近代美術館多目的ホールで開催しました。NP0法人ファザリング・ジャパン東海支部から講師を招き、父親と0~5歳の子供を中心に約50人が参加し、絵本の読み聞かせや新聞を使った室内遊びを親子で楽しみました。

J:『参議院議員通常選挙を執行』

(選挙管理委員会事務局)

7月21日に参議院議員通常選挙が執行され、市の投票率(53.90%)は県内平均(54.32%)を下回る結果となりました。

なお、4月7日執行の長野県議会議員選挙は、定数2に対して立候補者が2人だったため、無投票となりました。

2019 政策部 重大ニュース (令和元年を振り返る・政策部の出来事)

A:『第2期 安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定』 7月

(政策経営課)

令和2年4月からスタートする第2期戦略は、第1期の枠組を引き続き維持することを基本とし、「人口減少の克服」及び「人口減少を見据えたまちづくり」に高い効果が見込める施策に的を絞った計画策定を進めています。

B:『サイクリングで健康チャレンジ』 4月
(政策経営課)

自転車を活用したまちづくりの一環として、応募のあった市民25名により「自転車に乗ることが健康増進にどのような効果があるのか」を松本大学等の協力により3年かけて検証する取組を始めました。

C:『市内にサイクリングコースを設定』 4月
(政策経営課)

自転車に対する理解と自転車を活用する機運の醸成を図るため、さまざまな年齢・体力・嗜好の人が自転車に乗ることを想定し、市民、観光客、サイクリストのいずれにも偏ることなく安全で楽しく、何度でも走りたいと思えるようなコースづくりに着手しました。

D:『移住定住を促進(空き家を利活用)』 11月
(政策経営課)

移住定住の促進に向け、本年は首都圏において市単独の移住セミナーを2回、現地体験会を2回開催しました。こうした取組に加え、11月には空き家の利活用等を図る意向がある所有者に、物件の取扱いを希望する市空き家バンク仲介事業者を紹介しました。空き家問題の課題解決と移住定住の一層の促進につながるよう取組を進めます。

E:『姉妹都市・オーストリア共和国クラムザッハを公式訪問』 9月

(政策経営課)

9月28～30日まで、市長・議長・教育長・市職員2名の公式訪問団及び安曇野クラムザッハ友好会の訪問団22名が、姉妹都市のオーストリア共和国クラムザッハを公式訪問しました。現地では伝統の祭り「キルヒターク」に参加するなど交流を深めました。また、来年のオリンピック期間に合わせたクラムザッハ住民の来訪について、ベルンハルト・ツイステラー町長と懇談しました。

F:『東京2020オリンピック・パラリンピックに向けホストタウンの活動を推進』

(政策経営課)

10月1～3日、市長をはじめとする公式訪問団がウィーンのオーストリアカヌー連盟を訪問、オリンピック期間中の交流について連盟役員と懇談しました。また、8～9月に小学生を対象としたカヌー教室を5回開催し36人が参加、そのほか10月に行われたNHK杯国際カヌースラローム競技大会でオーストリア選手を取材する機会を得て、市の広報に紹介記事を掲載するなど、オリンピックに向けホストタウンの機運醸成を図りました。

G:『「あづみん」を補完する交通手段の検討開始』 7月

(政策経営課)

市地域公共交通協議会に部会を設置し、7月から「あづみん」を補完する交通手段として、市民団体から要望が寄せられている巡回バスの導入、定時定路線の拡充・延伸の有効性等について検討を開始しました。安曇野市にふさわしい持続可能な公共交通の実現を目指します。

H:『広報あづみの300号が発行』 10月

(秘書広報課)

令和元年10月16日に発行した安曇野市の広報紙「広報あづみの」が創刊号(平成17年10月20日発行)から数え、300号となりました。300号では、創刊号をはじめ、歴代の特集記事を紹介しました。

I:『公衆無線LANの整備』

(情報統計課)

本年5カ所を追加し、市内22カ所の施設に無料で利用できる無線LANを整備してWiFi環境を提供しています。
最大50台のモバイル端末の同時接続機能を持った機器への入替をすべての施設で行いました。パソコンはもちろんスマートフォンやタブレットで利用でき市民・来訪者の利便性が向上しています。

J:『2020年農林業センサス実施準備』

(情報統計課)

令和2年2月1日を調査基準日として実施される「2020年農林業センサス」に従事して頂く調査員約340人を区長より推薦頂きました。
この調査は5年に一度農林業を営むすべての農家、林家や法人の市内約8,300戸を対象として、聞き取りや調査票の配布・回収を行う大規模な調査となります。

財政部 重大ニュース・トピックス (令和元年を振り返る・財政部の出来事)

A: 『健全化判断比率』
(財政課)

平成30年度決算に基づく健全化判断比率は、実質公債費比率が9.3%（前年度9.4%）将来負担比率が12.8%（同18.2%）となりました。
健全化比率は、財政運営の指針指標として捉え、市債事業の実施に当たっては、将来負担の抑制と平準化を図ります。

B: 『税に関する作文・ポスターの表彰』
(税務課)

本市、本市教育委員会、松本税務署などで構成する租税教育推進協議会が募集した『税に関する作文・ポスター』の入賞者表彰式を11月25日に開催。松本税務署長賞、市長賞など46人の表彰を行いました。中学生と高校生の合わせて994作品の応募がありました。

C: 『RPAの実証実験』
(税務課)

市民税担当において、UiPathのフリーソフトを使用し、給与特徴異動処理・所得照会の帳票発行・システムの折衝入力等の業務についてRPAの実証実験を実施しました。年間約400時間の事務作業の効率化が可能であることを確認したので、令和2年度からの本格導入を目指します。

D: 『千曲市へ職員を災害派遣』
(税務課・収納課)

台風19号豪雨災害により被害を受けた千曲市へ長野県市町村災害時相互応援協定に基づき、10月18日～28日まで、罹災証明発行の基礎調査となる「家屋被害認定調査」のため、税務課・収納課職員延べ14人の職員を派遣しました。

E: 『軽自動車税の制度変更』
(税務課)

今年10月1日から自動車取得税が廃止となり、新たに「軽自動車税環境性能割」が課税されました。また、今までの軽自動車税は、「軽自動車税種別割」と名称が変わりました。

F: 『滞納額を縮減、合併時の半分に！』
(収納課)

国保税を除く市税の収入未済額が平成30年度決算で初めて3.5億円を下回りました。これは、平成21年度のピーク時に9億7千万余りあった収入未済額の35%、安曇野市合併時の収入未済額7億円の49%に相当します。

G: 『新電力移行で市有施設の電気代節約』
(財産管理課)

新電力会社へ移行した契約容量50kw以上または高圧受電の市有59施設の平成30年度電気代削減額は約5千280万円でした。契約容量50kw未満の低電圧施設は効果が見込まれる5施設を本年度新電力へ切り替え、年間約50万円程度の削減を見込んでいます。

H: 『新総合体育館建設工事施工者決定』
(総合体育館建設推進課)

5月7日に入札公告し、技術提案型の総合評価落札方式による一般競争入札により施工者を決定しました。
施工者からのVE提案等を設計に反映させ来春には本格的な施工に移行し、令和3年10月の完成を目指します。

I: 『クラウドファンディング型ふるさと寄附』
(総合体育館建設推進課)

『来ましょ住ましょ安曇野に 移住交流促進プロジェクト』事業の第一弾として、新総合体育館建設に係る事業費の一部をクラウドファンディング型ふるさと寄附により募ることとしました。また、周知のため、ツイッターを活用した情報発信を積極的に始めました。



市民生活部 重大ニュース・トピックス (令和元年を振り返る・市民生活部の出来事)



B:『特殊詐欺等被害防止対策機器設置補助金を創設』(地域づくり課)

特殊詐欺や悪質な電話勧誘販売等による消費者被害を防止するため、被害に遭いやすい高齢者を対象とした「特殊詐欺等被害防止対策機器設置補助金」制度を設けました。対策機器の設置費用に対して、費用の2分の1、上限5,000円を補助するものです。消費生活センターにおける相談、啓発活動の充実等とあわせ、被害防止に努めてまいります。

C:『住民票、個人番号カードへ旧氏併記開始』(市民課)

住民基本台帳法施行令等の一部改正に伴い、11月5日から住民票や個人番号カードに旧氏(旧姓)を申請により併記することができるようになりました。これにより、婚姻等で氏に変更があった場合でも、旧氏を個人番号カードに併記し公証できるようになるため、旧氏で身分証明などに活用できます。

A:『市民活動サポートセンターを本庁舎に移転』(地域づくり課)

4月1日、市民活動サポートセンターを、穂高支所内から本庁舎内に移転しました。平成31年度(令和元年度)から5年間を計画期間とする第2次「協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」に基づき、情報の収集・発信、講座等の開催、相談、コーディネートなど機能と事業の充実に努めています。

D:『水資源功績者表彰受賞』(環境課)

市は国土交通大臣表彰「水資源功績者表彰」を受賞しました。この表彰は、水資源の開発や保全に関わる表彰で、市がこれまで地下水や水循環など水資源に関する調査研究を行い、地域住民、事業者と協働して水資源の保全に係る活動を長年にわたり実施してきた功績が認められたものです。引き続き、貴重な資源である地下水の保全・涵養及び適正利用を図っていきます。

E:『三郷一般廃棄物最終処分場の地元協定の延長』(廃棄物対策課)

令和元年9月末日で期間満了を迎えた「安曇野市三郷一般廃棄物最終処分場」の地元協定について、地元区と協議を行い、令和4年9月30日または、最終埋立基準に達するまでのどちらか早い日までとする延長協定を締結しました。これにより、市内の不燃物処理が今まで通り埋め立て処理することが可能となりました。

F:『行政訴訟判決』(廃棄物対策課)

平成30年4月11日付けで東京高等裁判所へ控訴された「一般廃棄物処分業の許可処分取消等請求事件」について、令和元年6月28日判決が言い渡され、市の主張が認められ、原告側の被害について「認めるに足りる証拠がない」として、原告の請求が棄却されました。

G:『納涼祭を単独開催』(穂高地域課)

「穂高納涼祭」は、8月3日 穂高駅前通りおよび穂高神社北神苑を会場に、2,000人余の穂高地区住民の皆さんの参加を得て盛大に開催されました。なお、今年は、信州安曇野わさび祭りとして同時開催していた「YOSAKOI安曇野」が、暑さ対策で9月に変更になったことから、単独開催となりました。

H:『公民館講座の新たな試み』(三郷地域課)

2つの新しい公民館講座に取り組みました！
1つ目は、小学校児童の夏休み延長に伴い、夏休み子ども講座を8月19日～21日の3日間開催し、夏休みの学習のまとめの他、けん玉やニュースポーツへのチャレンジを行い、有意義な時間を過ごしました。2つ目は、6月にコーヒー教室を開講し、夏に美味しい「アイスコーヒー」の入れ方や、ハンドドリップの実習を行い、豊かな香りと、芳醇な味わいを楽しむと共に、コーヒーに関する知識を学んでいただきました。
今後も三郷公民館では市民の皆さんに楽しんでいただける講座を開講していきます。

I:『地域活性化に向けた協働事業』(堀金地域課)

第3回常念フェスティバルを開催しました。今年度は、「堀金の夏祭り」と位置付け8月の終わりに開催しました。堀金地域内外からの参加者によって祭りを盛り上げ、地域の活性化を図ることができました。

K:『第35回安曇野明科あやめまつりの開催』(明科地域課)

6月15日から23日にかけて第35回安曇野明科あやめまつりを開催しました。今回から実行委員会事務局が明科地域課に移管。あやめ新緑ウオーキング、にじますのつかみどり、交流芸能発表会、安曇野太鼓まつり、松本山雅トークショー、小中高生による吹奏楽演奏等様々なイベントを開催。令和を記念し餅まきが行われ大人から子どもまで多くの来場者で賑わい、地域の皆さんの交流が図られました。



福祉部 重大ニュース・トピックス (令和元年を振り返る・福祉部の出来事)

B:『民生委員・児童委員の一斉改選』 (長寿社会課)

本年は、3年に一度の民生委員・児童委員の一斉改選の年にあたり、各区長のご協力を得て、令和元年12月1日付で再任の委員を含め新たな民生委員・児童委員並びに主任児童委員を委嘱いたしました。市民の身近な相談相手、地域と福祉関係機関等をつなぐパイプ役として、今後の活動が期待されます。

C:『穂高地域福祉センターエアコン更新工事の完了』(長寿社会課)

児童館やデイサービスセンター、老人福祉センター等がある穂高地域福祉センターのエアコンが設置から28年目となり、老朽化に伴う修理も困難なため、全13系統のエアコン更新工事を行い、7月に竣工し快適な夏を過ごすことができました。

E:『安曇野パラスポーツフェスタ2019の開催』(福祉課)

パラスポーツ等の体験を通じ、障がい者福祉への理解を深め、東京パラリンピック等の機運の醸成を目的としたパラスポーツフェスタを11月24日に開催しました。

パラリンピックの正式種目のボッチャやブラインドサッカー体験等、子どもから高齢者まで約400名が参加し、体験、交流、理解が深まる1日となりました。

F:『ひきこもり支援啓発講演会開催』(福祉課)

10月1日に「経験者が語る、家族・社会に求める支援とは」と題しNPO法人「楽のリーラ」ピアサポーターの大橋史信さんの講演会を開催し84名の参加がありました。ひきこもりに対する家族・地域社会のかかわりや、無理せず生きる大切さをお話しいただき、対話集会では個々の悩みに丁寧で適切なアドバイスをいただきました。

H:『第2次安曇野市子ども・子育て支援事業計画策定へ』(子ども支援課)

本年度で終期となる第1次の本計画を引き継ぐ第2次計画の策定を進め、素案のパブコメを実施します。

子ども・子育て支援法に基づく法定計画として出産、妊娠期から青少年期までの包括的な計画として子育て支援を推進します。

I:『たつみ認定こども園完成、明科南認定こども園建築中』(子ども支援課)

平成29年度末から進めてきた「たつみ認定こども園」新園舎の建築工事が完了し、5月13日にお披露目を挙行了いたしました。

平成30年9月から建設を進めている「明科南認定こども園」建築主体工事が、11月25日申し出により契約解除となりましたが、令和2年3月の開園に向けて準備を進めています。

A:『プレミアム付商品券の販売』(長寿社会課)

消費税・地方消費税率が引き上げが低所得者・0～2歳児のいる子育て世帯の消費に与える影響を緩和するとともに、地域における消費を喚起・下支えするため、「安曇野市プレミアム付商品券2019」を令和2年3月31日まで販売しています。

D:『子育て支援講演会開催』(福祉課)

子ども発達支援相談室では、10月2日に「遊び・学び・仕事」～子供の力を発揮するために今できること～と題し、光保恵作業療法士による講演会を開催し、200名を超える保護者や関係機関の支援者が参加しました。

参加者からは「具体的で分かりやすかった」「実践したい」「子どもの行動への理解が深まった」など、気づきや理解に繋がる講演会となりました。

G:『教育・保育の無償化実施』

信州やまほいく実施園も対象に(子ども支援課)

消費増税分で国が行う教育・保育の無償化に合わせて、自然保育に積極的に取り組む認可外の保育施設に通う無償化対象外の3歳以上児の保育料を最大25,700円補助し、認可保育施設と同等の支援をすることとなりました。

～市民一人ひとりが
安全で安心して暮らせるまちづくりの実現～

『アクティブシニアが輝くまち』
『一人ひとりが輝き、
心豊かに安心して暮らせる共生のまち』
『笑顔あふれる子どもが育つ子育て支援』

保健医療部 重大ニュース・トピックス (令和元年を振り返る・保健医療部の出来事)

B: 『12歳児平均むし歯数最少記録達成』 (健康推進課)

H30年度の12歳児の一人平均むし歯数が0.34本で合併以降最少となり、国0.8本・県0.6本を下回り県内でも最少レベルとなりました。これは「歯科口腔保健条例」に基づき全市で歯科口腔保健事業を推進している成果の表れと言えます。

C: 『産婦健康診査開始』 (健康推進課)

4月から、産後うつ予防と乳児虐待予防のための「産婦健康診査」が開始され、産後2週間と1か月の時期の健診費用の助成を行っています。宿泊型産後ケア事業と母乳相談等助成事業の利用期間の拡大も行い、早期の支援につながっています。

D: 『自殺対策事業の推進』

(健康推進課)

H31年3月策定の「自殺対策計画」に基づく事業として、広報での啓発や「相談窓口一覧」の配布、市民と職員を対象とした「ゲートキーパー研修」や中学校における「SOSの出し方教育」など、「生きることの包括的支援」としての事業が展開されています。

E: 『成人の風しん追加的対策の実施』 (健康推進課)

国の「風しん追加的対策」に基づき、風しんの抗体保有率の低い年代の男性を対象に、風しんの抗体検査と「抗体のない者」に対する予防接種を実施しています。5月には、対象者にクーポン券を発送しており、順次、抗体検査と予防接種が実施されています。

F: 『受動喫煙防止対策の推進』

(健康推進課)

健康増進法の一部改正を受け、市の施設における受動喫煙防止対策として市役所等の「第一種施設」は7月1日から敷地内禁煙となりました。公民館等の「第二種施設」についても各部署で取り扱いを検討し、R2年4月に向け準備を進めています。また市民への理解を得るため広報活動も行っています。

G: 『フレイル対策の推進』

(介護保険課)

高齢者の心身の課題に対し、効果的・効率的に保健事業と介護予防の一体的な実施を推進するため、部内にプロジェクトチームを設置しました。チームでは課題を分析するとともに、既に取り組んでいる事業を強化するなど、フレイル対策の効果的な推進と体制整備に向けての準備を進めています。

H: 『介護相談員派遣事業開始』

(介護保険課)

介護サービスの質向上を目的に“介護相談員”6名を養成しました。相談員を施設に派遣し、介護保険施設サービス利用者の相談や要望をお聞きするなど、利用者等とサービス事業者等の橋渡し役を行う「介護相談員派遣事業」が9月から開始となりました。

I: 『国民健康保険税の賦課方法を変更』

(国保年金課)

10年振りに国民健康保険税率を1世帯当たり平均5.3%引き上げました。税率を引き上げた一方で、合併以来の懸案であった資産割を廃止し、納付回数を9回から12回に増やすことで、納税者の負担軽減に配慮しました。

J: 『国保健康ポイント制度の本格実施』

(国保年金課)

前年度の健診等の受診実績によって、20歳以上の被保険者3,525人に、獲得した500ポイントごとに500円の「国保健康ポイント割引券」を交付しました。健診等や農産物直売所で割引を実施し、11月末現在で2,315人の方にご利用いただきました。

農林部 重大ニュース・トピックス (令和元年を振り返る・農林部の出来事)

B:『多面的組織広域化』 (耕地林務課) - 6月 -

多面的機能支払交付金事業により農業用水路の泥上げ、補修等の環境保全活動を実施している市内の56組織のうち、35組織が6月に5つの広域組織として協定を締結しました。今後、取組組織の負担を軽減し、継続して事業に取り組んでいけるように事務の省力化・効率化を図っていきます。

C:『台風19号災害』 (耕地林務課) - 10月 -

長野県では東北信を中心に広域的な被害をもたらした台風19号災害は、激甚指定となる大きな災害となりました。

当市でも東部を中心に豪雨となり、耕地災害として、農地(明科中川手)と頭首工(豊科光)の2カ所が被害を受けました。また、林道災害として国道143号線に接続する林道舟ヶ沢線の法面が崩壊しました。今後、災害復旧工事を実施し早期の復旧に努めます。

A:『森林経営管理制度が開始』 (耕地林務課)

- 4月 -

林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図る「森林経営管理制度」とその財源となる「森林環境税・森林環境譲与税制度」が同時にスタートしました。経営意欲の低い森林所有者と経営能力のある林業事業者をつなぐことで適正な森林の経営管理を行います。また、経営的に不利な森林は、市が自ら経営管理を行っていく事となりました。

D:『CSF(豚コレラ)防疫対策』 (農政課)

- 10月 -

CSFはH30年9月に国内で26年ぶりに発生が確認されて以降、野生イノシシや飼養豚への感染が拡大しました。市では関係機関と連携し養豚場の衛生管理の徹底、防護柵の設置支援、捕獲強化や経口ワクチンの散布などの野生イノシシ対策等を行いました。10月15日に特定家畜伝染病防疫指針が改正、飼養豚へのワクチン接種が認められ、市内でも10月26日(土)から11月3日(日)に全ての農場でワクチン接種が実施されました。

E:『東金市の留学生が農家民宿を体験』 (農政課) - 10月 -

10月26日から27日にかけて友好都市・千葉県東金市の城西国際大学の留学生26名が7軒の農家民宿を利用しました。「温かいおもてなしに感謝」「おいしい日本料理に感動」との声も聞かれ、新たな交流が生まれました。これからも関係人口の拡大に向け、農家民宿の取り組みを推進していきます。



林道舟ヶ沢線の法面が崩壊

G:『特産品のマレーシア輸出に向けて』 (農政課) - 10月 -

平成28年度から地方創生推進交付金を活用し、海外輸出に向けた取り組みを行っています。10月28~30日にマレーシアの輸入事業者を安曇野に招聘し、ワサビや日本酒、信州サーモンなど特産品のPRを行いました。その後の商談も進んでおり、今後の取引きが期待されます。

H:『農地等の利用の最適化の推進に関する指針を策定』 (農業委員会) - 11月1日 -

農業委員会等に関する法律第7条の規定に基づき「農地等の利用の最適化の推進に関する指針」を策定しました。この指針は、農業委員・農地利用最適化推進委員が農地等の利用の最適化を推進するため、令和5年度までの目標・推進方法を定めたもので、今後、この指針に基づいて活動していきます。

I:『木質チップボイラー導入事業化検討協議会の設立』 (耕地林務課) - 12月 -

環境省の補助金を受け、木質チップボイラー導入事業化計画策定業務による調査及び10月より開始されました。市内温浴施設等への導入により、地域森林資源の有効活用と地球温暖化防止対策等の推進が図れるか調査検討するもので、12月4日には、有識者や関係者からなる検討協議会が設立され、今後の調査により導入の可能性を検討していきます。

J:『第2次安曇野市里山再生計画の策定』 (耕地林務課) - 12月 -

里山の再生に向けた取組を行っている、里山再生計画では、計画推進の取組を「さとぶる。」と呼び、市民の皆さんと一緒に活動をしています。本年度で第1次計画期間の5年が経過することから、これまでの成果や課題を踏まえた、第2次里山再生計画を本年度末に策定し、引続き「さとぶる。」を推進します。



We love our morning.

AZUMINO

商工観光部 重大ニュース・トピックス
(令和元年を振り返る・商工観光部の出来事)

B:『長峰荘を民間譲渡』
(観光交流促進課) 4月
公共施設再配置計画において譲渡又は廃止と位置づけられていた長峰荘について、4月1日付で(株)ドリームホテルへ譲渡しました。譲渡の条件として、10年間は宿泊・宴会・入浴の3事業を継続する事となっており、今後は民間のノウハウを活かし、地域住民の交流の場として、安曇野市の観光を活性化させる拠点として運営して頂きます。

C:『安曇野の魅力掘り起こし地域おこし協力隊員採用』
(観光交流促進課) 4月
4月から旅行業経験者を地域おこし協力隊員として初めて採用しました。来訪者目線から安曇野の新たな魅力の掘り起こしと既存の素材の磨き上げを行い、市観光協会と旅行商品開発や情報発信などに取り組み、安曇野ブランド化構築と交流人口拡大に取り組みます。

A:『あづみ野産業団地拡張事業が本格始動』
(商工労政課) 3月
地域未来投資促進法に基づく「あづみ野産業団地拡張事業」は、3月25日に国の基本計画変更同意を得て本格始動しました。事業区域である土地利用調整区域を設定し、基本設計の策定等を進め、令和3年度には分譲する計画です。

D:『秋篠宮家の長女眞子様、市天蚕センターをご視察』
(観光交流促進課) 5月
全国都市緑化祭の記念式典ご出席に合わせ、5月22日、秋篠宮家の長女眞様様が、市天蚕センターをご視察されました。穂高有明の天蚕は、かつて全国に繭が出荷され、皇室にも献上されていました。皇室では、歴代皇后さまが天蚕を含めた養蚕を行われており、安曇野で今も受け継がれる天蚕について、知っていただくよい機会となりました。

E:『第5回記念信州安曇野ハーフマラソン開催』
(観光交流促進課) 6月
記念大会となった今年はボランティア参加者数が過去最高になりました。爽やかな安曇野の空気と景色、沿道からの笑顔の応援、温かいおもてなしにより、回を重ねるごとに人気が高まり、ランナーの皆様からも高い評価をいただいています。

F:『安曇野で初開催 田んぼアート』
(観光交流促進課) 6月
安曇野スイス村前の田んぼに8種類の稲で大きな絵を描く田んぼアートを開催。今年は大河ドラマ「いだてん」をテーマに描かれました。稲の成長に伴い絵の雰囲気が変わり、北アルプスの背景とともに楽しむことができます。6月から9月の期間中、展望台には6万人以上の方が訪れました。

G:『UIJターン就業・創業移住支援事業開始』
(商工労政課) 8月
地方の担い手不足の解消及び大都市圏からの移住促進のために、UIJターン就業・創業移住支援事業が始まりました。この事業がきっかけで安曇野市に移住した方から申請があり、長野県下第1号となりました。来年度も2組の移住見込みがあります。

H:『安曇野市働き方改革相談窓口開設』
(商工労政課) 9月
働き方改革に取り組む事業主を対象にした社会保険労務士による相談会が、9月から毎月第3水曜日に安曇野市役所にて開催しています。就業規則の作成方法、賃金規定の見直し、労働関係助成金の活用などについて相談に応じます。

I:『テレワークセンター開設』
(商工労政課) 10月
地域の就労機会の創出と、多様な就労環境整備の一つとして、「安曇野市テレワークセンター」が、10月15日に穂高支所西別棟1階に開所しました。これにより、新たな就労機会の創出、とりわけフルタイムでの就労が困難な方に就業機会を提供していきます。

J:『信州安曇野新そばと食の感謝祭、農林業まつり盛況』
(商工労政課) 11月
本年度7回目を迎えたイベントに、4万2千人の来場がありました。当イベントの魅力は、何といても新そばを存分に堪能でき、安曇野の食文化にも触れられるところです。安曇野の農産物や、友好都市の産物など来場者には十分満喫いただけた二日間でした。

2019 都市建設部 重大ニュース&トピックス ～「安全・安心のまちづくり」のために～

災害に強いまち

・『地域特性に応じた自主避難計画の策定が進む』（監理課・危機管理課）

近年の局地化・激甚化する災害から生命・財産を守るため、市では県と連携して「地域特性に応じた自主避難計画」を作成しています。今年度は小瀬幅区、潮沢区で策定中で、これまで7地区で作成されています。

・『「除雪基地・水防倉庫(上原)」が完成』（建設課）

公共施設等再配置計画により6月から建て替え工事を進めていた上原建設課倉庫が10月末日完成しました。床面積が増えたことで、除雪機械5台が収容でき、水防資機材各種の備蓄が可能となりました。安曇野市北部の除雪・水防の拠点として、名称を「除雪基地・水防倉庫(上原)」に変更しました。

・『大規模盛土造成地マップの作成』（建築住宅課）

大地震発生時に、大規模に谷や沢を埋めた造成地での滑动崩落等の被害が懸念されるため、造成地の位置、規模等の調査を行いました。調査の結果、市内9箇所を大規模盛土造成地として判定し、マップを作成、公表しました。引き続き、より詳細な調査を実施します。

利便性の高いまち（施設の整備）

・『梓橋の完全3車線化工事に着手』（監理課）

平成26年に約2万人が署名した梓橋の「改修を求める請願書」が市に提出されたことから、市は県へ要望するとともにOD調査などを実施し、事業化に向けて関係機関に働きかけてきました。県は本年度から橋脚の拡幅工事に着手し、本格的に完全3車線化工事が始まりました。（事業計画区間：L=73.2m）

・『新体育館周辺道路整備に着手』（建設課）

体育館建設に併せ、本年度から一部道路工事に着手しました。全体計画として東西方向は総延長約1.4Kmの区間となります。歩道付きの2車線整備を計画しており、南部総合公園入口交差点は東西南北方向に右折レーンを設ける計画です。

・『三郷文化公園体育館リニューアル』（都市計画課）

昨年度から工事に着手していた、三郷文化公園体育館大規模改修工事が平成31年3月に完成し、内装の更新とともに耐震化されました。安全で快適な環境のもとスポーツ・健康づくりにご利用いただけます。また、第36回全国都市緑化信州フェアのサテライト会場として、記念シンポジウム等を開催しました。

トピックス（今年の話）

・『「松本糸魚川連絡道路」新設区間のルート帯案発表』（監理課）

12月1日に開催された市民説明会で、県から4本のルート帯案の提示と評価項目の説明がありました。今後は、評価結果を公表して市民の皆さんと意見交換を行い、年度内に最適なルート帯を選定する予定です。

・『6名が橋梁MAE資格取得』（建設課）

橋梁の構造・劣化・補修等に関する基礎知識を有し、点検の技術を習得した者に与えられる資格、橋梁MAE（メンテナンスアシストエンジニア）を建設課職員6名が取得しました。本市はこの資格取得者が主となって橋梁の定期点検にあたります。

・『信州花フェスタ2019を開催』（都市計画課）

長野県初となる、「第36回全国都市緑化信州フェア～信州花フェスタ2019」が、4月25日から6月16日までの53日間開催されました。メイン会場に49.2万人、サブ会場に21.3万人、市内サテライト会場等に7万人と大勢の来場者があり、成功裏に閉幕しました。三郷文化公園の「メリー・ゴーラウンド・ガーデン」は、直径28mの花壇に日々咲き変わる花々が好評でした。

・『住宅使用料徴収率100%達成』（建築住宅課）

現年度決算において、市営住宅使用料及び駐車場使用料の徴収率100%を達成しました。県内19市においても、本市以外では1市が達成しているのみです。入居者の皆様へ、僅かでも滞納とならないよう、自主的納付の呼びかけの結果と言えます。

住みやすさを感じるまち（住環境の整備）

・『道の駅のトイレが【まごころトイレ】に認定!』（監理課）

県では、一定基準を満たした観光地等の公衆トイレを『信州まごころトイレ』として認定を進めており、本年度、本市の道の駅「アルプス安曇野ほりがねの里」が県内98箇所目の『信州まごころトイレ』として認定されました。

・『サイン整備進む』（都市計画課）

平成30年10月に策定したサインガイドラインに基づくサイン整備が進んでいます。本年度は、穂高地域を中心に19基の整備を進め、今後は都市景観の質的向上と、本市の一体感の醸成及び、多言語化に対応したサインの整備を進めていきます。

・『緑のまちづくり事業で記念樹配布』（建築住宅課）

お子様の誕生・小学校入学や住宅新築等の祝いとして記念樹を贈る緑化記念樹交付事業の申請が525件（669本）ありました。また、生垣設置事業の申請は25件（内ブロック塀撤去8件）ありました。緑に囲まれた安らぎを感じる環境づくりや、市民の緑化意識の向上に繋がっています。

上下水道部 重大ニュース・トピックス (令和元年を振り返る・上下水道部の出来事)

B: 『豊科明科地域整備事業の推進』

(上水道課)

平成29年度から4年間の継続費で推進している豊科明科地域整備事業は、昨年着工した新光配水池(容量1,500m³)の建設が3月に竣工し、引き続き、水源地と配水池を結ぶ送配水管布設工事(JR・国道横断あり)約2,700mを発注し、年度内竣工予定で進めています。

C: 『主要管路耐震化と老朽管布設替工事の推進』

(上水道課)

水源から拠点配水池に接続している導水管や災害時に避難所及び医療拠点となる施設と配水池を地震に強い耐震管で結ぶ主要管路の整備を穂高・三郷地域で約2,700mと、既存管路の老朽管布設替工事を市内20路線約3,500mを発注し、年度内竣工予定で進めています。

D: 『上下水道合同防災訓練の実施』

(経営管理課)

市総合防災訓練に合わせ上下水道部と市水道事業協同組合、県下水道公社、ヴェオリア・ジェネッツ社で合同防災訓練を9月に実施しました。初動体制の確認を中心に図上での想定被害による情報収集・応急給水訓練や、下水道施設の非常用発電機稼働訓練などを行いました。

E: 『水道料金の統一』

(経営管理課)

これまで地域毎に異なっていた水道料金は、3月議会で料金改定の条例改正が議決され、10月より新料金に移行しました。これにより市内のどの地域でも水道料金は同一のものとなりました。

G: 『明科下水道処理施設統廃合検討業務に着手』

(下水道課)

明科地域の公共下水道及び農業集落排水の処理施設5か所を、県が管理する犀川安曇野流域下水道へ統合する方針について地元区に説明し、具体的な接続ルート等の検討業務に着手しました。引き続き県及び関係機関と今後のスケジュールの調整を進めます。

H: 『ストックマネジメント計画策定に着手』

(下水道課)

下水道管路施設の中長期的な施設の状態を予測しながら長寿命化を図るため、維持管理・改築を一体的とした点検調査・修繕改築計画の策定業務を発注し、年度内業務完了を予定しています。

A: 『市のマンホール蓋デザインの決定』

(下水道課)

合併前の旧町村のデザインを継承しているマンホール蓋について、新たに市をイメージできるデザインを制作することとなり公募を行い、105作品の応募がありました。この中から選定委員会により11作品に絞り、10月に市内10か所で候補作品を展示し、市民投票を実施しました。その結果、投票総数2,495票の内498票を獲得した市在住の野溝さんの作品「水鏡(みずかみ)」に決定しました。



作品への思い、説明

安曇野に常念坊が現れると田植えの季節です。雪融け水をたたえた田んぼは「水鏡」となり、雪が残る常念岳、常念坊の祝杯を受ける道祖神、リンゴの花を映します。澄んだ水と空気に育まれた特産品「リンゴ」の中に、壮大な景色・文化をシンメトリー(上下左右)に配置、安曇野の魅力、自然と人との共生を表現しました。国内外・年齢を問わず、この絶景を大切な人と一緒に見に行きたい・・・と心をひきつけるデザインです。

F: 『漏水調査の実施』

(上水道課)

堀金地域41kmにおいて、漏水調査を実施しました。8か所の漏水を確認し、修理を行い、1日約800m³(例えば25mプールの容量は約600m³)の漏水を解消できました。今後も有収率の向上を目指します。

I: 『給水装置指定工事店説明会の開催』

(上水道課)

3年毎に開催している安曇野市給水装置指定工事店説明会を7月に行い、給水・配水管工事施工基準や給水装置工事・しゅん工検査申請、加入分担金、漏水減免等の手続き、水道法改正への対応などについて説明しました。138業者が参加しました。

教育部 重大ニュース・トピックス (令和元年を振り返る・教育部の出来事)

B:『新中学生議会開催』 (学校教育課)

11月4日に中学生議会を開催しました。本年度、各中学校ごとに取り組む課題を選択し、3名でのグループによる体験的な学習、取材活動、意識調査を取り入れ、より主体的な提言を行い、主権者としての意識を高めることにつながりました。働き方改革が叫ばれる中、学校と市の役割分担などを見直し、さらによりよいものへと改善していきます。

C:『初の「小学生夏休み企業見学」』 (学校教育課)

8月20、22日に「地域を知り、将来安曇野で働きたいと思う子どもを育てる」ことを目的に本年度初めて「小学生夏休み企業見学」を開催しました。小学4、5年生計59名が2日間に分かれ、一日2企業の見学を実施しました。本市で製造された機械が全国、世界、宇宙へと役立つ事を知り、子ども達の目が輝いていました。

A:『横内教育委員再任』 (学校教育課)

令和元年市議会9月定例会での同意を得て、横内理恵子教育委員が再任されました。教育委員は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するものの中から、市長が市議会の同意を得て任命します。なお、横内教育委員は保護者として選任されており、任期は令和元年11月9日から4年間です。

D:『活力ある学校づくりのあり方検討』 (学校教育課)

児童生徒の減少期における「今後の安曇野市立小中学校の活力ある学校のあり方」に係る検討を教育委員会で開始しました。安曇野市教育大綱に定める“からだを動かし、頭で考え、心に感ずる”「たくましい安曇野の子ども」を具現化するための教育環境とはどのようにあったらよいかを、月1回のペースで検討していきます。

E:『給食センターの今後あり方市民説明会を開催』 (学校教育課)

本市の学校給食の今後のあり方について、市教育委員会主催の市民説明会を本年5月18日から6回の市民説明会を開催しました。現在、この中でご質問ご意見にありました学校給食センターの施設及び備品の状況確認、統廃合とした場合の経費の算出等のデータの整理を進めているところです。これらの情報と現在の食育及び地産地消の状況等について、再度市民説明会を行う予定です。

F:『東京2020オリンピック聖火リレー』の実施が決定 (生涯学習課)

6月1日に東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレーの長野県ルートが発表され、安曇野市は、2020年4月3日に聖火が通過することとなりました。市では11月1日に実行委員会を開催し、聖火リレーを全市を挙げて歓迎するための企画案等を検討しています。子どもから大人まで多くの安曇野市民の参加で聖火リレーを盛り上げたいと思いますので、ご協力よろしくお願いたします。

G:『2027長野県国体競技会場』に内定 (生涯学習課)

7月31日に開催された県国体準備常任委員会において、2027長野国体のバレーボール(6人制)とウエイトリフティングの競技会場地に安曇野市が内定されました。バレーボールは現在建設予定の新設体育館(仮称)で、ウエイトリフティングは、三郷文化公園体育館で開催する予定となっています。この地域から長野国体で活躍する選手が輩出できるよう、今後競技力向上に力を入れていきます。

H:『第10回市民スポーツ祭』の開催 (生涯学習課)

今年度の「市民スポーツ祭」は第10回記念事業として、6月30日に穂高会館で開催しました。篠原信一さんと松山三四六さんによるアスリート特別講演会、キッズ運動、ポッチャ体験、ピラティス、健康チェックなど、様々な体験型イベントを実施し、延べ2,991人と大勢の方に参加していただきました。

I:『第45回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)全国(安曇野大会)』 (文化課)

「文書館をつくる～市町村が拓くアーカイブズ活動～」をメインテーマとした大会が、11月14日と15日の両日、安曇野市で行われました。全国から文書館関係者等が講演会や研修会、交流会などに約260人が参加し、情報交換等を行いました。開館2年目の安曇野市文書館を全国にアピールすることができました。

J:『重文 曾根原家住宅保存修理事業終了』 (文化課)

曾根原家住宅では、今年3月、2年間にわたる耐震補強、屋根の葺き替え等の保存修理事業が終了しました。屋根や壁が補修され、暗かった室内にもスポットライトが取り付けられ、特徴の一つでもある小屋組みの様子も観察できるようになりました。また、昔使われていた古材や、民具なども展示されています。安曇野スタイルの会場にもなりました。

議会事務局 重大ニュース・トピックス (令和元年を振り返る・議会事務局の出来事)

『第6回議会報告会を開催』

今年で第6回目となった議会報告会を、5月22日に、豊科交流学習センター「きぼう」で開催しました。昼の部、夜の部と2回開催し、延べ42名の市民が参加されました。

3月定例会で審議された議案等を中心に報告を行いました。参加者からは予算審議の内容や市政について、様々な質問や意見が寄せられました。

『市長へ政策提言を行う』

安曇野市においても課題となっている人口減少について、その対策を各常任委員会で協議、検討を行ってきました。

その成果を議会からの政策提言として、10月15日に小松洋一郎議長から市長へ報告しました。

『安曇野市議会第4期後半の体制決まる』

申し合わせによる正副議長の任期（2年）を迎え、10月25日開催の第1回臨時会において、新議長に召田義人議員、新副議長に小松芳樹議員が選出されました。

また、各委員会の構成も新しくなり、召田新議長の下、新体制で安曇野市議会の第4期後半がスタートしました。

『友好都市 東京都江戸川区議会来訪』

11月7日、友好都市である東京都江戸川区議会の皆さんが安曇野市を訪れました。安曇野市の新本庁舎整備事業について行政視察のため来訪し、担当者が本庁舎整備について説明を行いました。

また、庁舎内の見学を行い、議会関連施設を中心に安曇野市の正副議長、各常任委員長及び議会運営委員長が案内をしました。

『議会だよりモニターはじまる』

市議会において年4回発行している「議会だより」の紙面充実のため、議会だよりモニターを市民の皆さんから募集し、20名の応募がありました。

20名の皆さんには議会だよりモニターとして、4月から議会だよりに関するアンケートに回答していただきました。いただいた意見や要望をもとに今後の議会だよりの紙面充実を目指します。

『山田幸与議員逝去』

3月23日、山田幸与議員が逝去されました。平成25年10月23日から5年5か月にわたり安曇野市議会議員を務められました。

この間、福祉教育委員長、総務環境委員長を歴任し、安曇野市議会運営と安曇野市の発展のためにご尽力いただきました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。